

工程改善トレーニング

～セミナー「安全品質について」講師 上林PM～

生産現場の改善を推進する人材を育成し、自ら改善活動を展開する力を養うことができるよう現場改善の手法を学ぶ。



生産性向上支援事業の一環として、県内企業11社17名が参加する「工程改善トレーニング」が秋田県主催で開催されている。初日の7月16日の座学研修では、40年にわたりトヨタグループでの品質管理経験を持つあきた企業活性化センターの上林プロジェクトマネージャー（PM）や、県の生産改善アドバイザーによる講義が行われ、製造現場での基本となる考え方を改めて学ぶ機会が設けられた。

上林PMは「安全と品質について」をテーマとし、大前提として「安全なくして生産なし。作業者が危険を感じる環境では良いものづくりはできない」と話し、「品質が良い=モノの性

能や出来栄が良いということではない。性能・価格・納期、お客様が何を重視するかで品質の基準が変化することを認識することが重要」と強調。「1件の重大災害の背景には300件のヒヤリ・ハットがある。安全に強い職場こそが品質・生産にも強さを発揮できる職場である」と締めくくった。

講義後はチームに分かれて、現場を想定した解析演習等を実施した。トレーニングは2日間の座学研修と3日間の現場実習で構成されており、9月には実際の製造現場でより実践的な研修を実施する予定。



参加者の声

現場で段ボールケースの印刷加工オペレーターを担当しており、今回初めて社外のセミナーに参加しました。



品質とは優れた技術がもたらす質と価値の高いものという漠然としたイメージを持っていたのですが、提供する立場からではなく、お客様が求めるものによって、品質の考え方を変化させる必要があることに気づきました。その他にも知ったつもりや知らなかったことが多々あり、とても有意義でした。

普段接することのない企業の皆さんとチームを組んで実習することで、自分では思いつかないような発想や新たな気づきを得ることもできたので、今回学んだことをもとに、社内でもできることから改善に向けて取り組んでいきたいと思っています。



積進工業株式会社
パッケージ事業部 製造管理課
古池 広弥さん